

小水力発電施設が完成 関電に売電計画 奈良・生駒市**■ 20年間で8000万円 利益見込む**

生駒市の山崎浄水場に19日、高低差を利用した自然の流水で水車を回し、発電する「小水力発電施設」が完成した。市は施設内で使用する電力を除き、すべて関西電力に売電する計画。20年間で8千万円の利益を見込んでいる。

国の「再生可能エネルギーの固定価格買取制度」を活用した事業で、発電した電力は、関西電力が1キロワット時あたり35・7円で20年間買い取る仕組み。

市によると、自治体の水道事業で、この制度を利用した小水力発電施設は全国初という。

総事業費は約1億4千万円で、昨年8月に着工した。1年間に、一般家庭62世帯分に相当する35万キロワットを発電できる。

浄水場には、74メートル高い位置にある平群町の平群調整池から水を供給。1時間あたり350トンの水を使用する。

山下真市長は「小水力発電は、逼迫（ひっぱく）した電力需給や地球温暖化対策、水道事業への財政貢献などに効果がある。新たなチャレンジとして他のモデルになれるよう事業を進めていきたい」と話している。